



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理 念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療 患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に 医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い 安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣·医療情報公開·医療 ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の 育成を行います

第24回 人吉医療センター研究





特別講演 多治見 司先生

12月16日(土)に人吉市カルチャーパレスで人吉 医療センター研究発表会を開催しました。今回は、院内 スタッフから13題の発表があり、特別講演でJCHO 九州病院 院長 多治見司先生にご講演いただきました。 多職種より様々な発表があり、特に普段関わりが少ない 部署の発表は、新たな発見ができ、とてもいい刺激に なります。

多治見先生の特別講演『これからの医療と福祉につい て』というタイトルで、これから私達が目の当たりにす る未来の問題について、2040年までの人口、患者入院、 就労などの推移をデータで示され、その具体的な対策を 挙げ、詳しくご説明いただきました。「地域の医療・福 祉を守ることが、地域の活性化に繋がる。」と医療・福 祉の現場の改善が、就労、結婚、出産、子育て等に繋がっ ていくことを理解できました。また、国民の意識改革に 関して挙げられ、「自分がどういう形で人生を終えたい か、周囲と予め考え理解・了解してもらうこと。」の必 要性を再確認でき、私たち医療従事者から発信していか ないといけないと考え、まずは身近な家族に話をしてい きたいと思います。

医療福祉連携室 田頭 隼人

第 24 回 JCHO 人吉医療センター研究発表会プログラム

2017.12.16 於: 人吉市カルチャーパレス 小ホール

2017.12.10 次・入口川ガルテヤーハレス カペール							
開会式 14:30~14:35							
No	演題名	演者					
	第 1 セッション 座長 田浦 尚宏/上村	明子					
1	当院で開催している看護師・救急救命士対象の外部 コースの活動報告	杉松 幸	太郎				
ロンコ	派遣型ワークステーション設置への試み〜2年目研修医 救急車同乗実習計画〜	坂本 恵	子				
3	救急車同乗実習・ワークステーションを経験して	平賀	7				
第2セッション 座長 瀬戸 雄飛/山下 アヤ子							
1 /1 1	超緊急帝王切開(レッド帝切)シミュレーション実施 報告	宮川を	美				
1 5 1	「いのち輝く未来の為に」〜かけがえのないあなたと 私〜 中・高校生の出前授業 活動報告	平野美	穂				
161	整形外科病棟看護師の尿道留置カテーテル管理の現状 と今後の課題	福屋 ち	ナチ				
第3セッション 座長 久保田 良美/岡本 理恵							
1 / 1	シスプラチン(CDDP)製剤投与に伴うハイドレー ション方法の検討	嘉村 基	樹				
8	終末期を共に迎える在宅看取り	藤田 恵	子				
	当院救急外来へ搬送された自殺企図患者の現状とフローチャート活用普及に向けて	田頭 隼	人				
第4セッション 座長 野村 昌弘/瀨上 竜夫							
17()1	シェーグレン症候群の口腔内所見に関して、当院での 診断体制確立に向けて	石神 哲	郋				
11	特発性肺維症により慢性呼吸不全を呈した症例に対 し、リザーバー式カニューラを用いて在宅酸素療法導 入を行った一例	森下 耖	靖				
12	当院における包括的心臓リハビリテーションの取り組み 〜問診フォーマットを用いた指導による運動習慣定着 の検討〜	田上を	久				
1 1:3 1	認定看護師取得を困難にする要因分件~認定看護管理 者に出来る支援とは~	渡辺 別	子				
	日に出れる久族とは、						

『これからの医療と福祉について』 JCHO 九州病院 院長 多治見 司 先生

閉会式



「慌ただしいこの時期にあえて研修を受けてみませんか?」

HMC 認定看護師会セミナー開催報告

12月という年末の忙しい時期に認定看護師会主催の研修会を開催致しました。

忙しい時期だけに、参加希望者がいるのかと不安な気持ちでしたが多くの方の参加を頂くことができました。 12月3日、26名の人吉球磨の看護師が「救急」「予防」の2ブースに別れ、受講しました。

「救急」では、救急看護認定看護師によりシミュレーションを用いた研修を行い、「予防」では、皮膚・排泄ケア、脳卒中リハビリテーション看護、感染管理、がん化学療法、手術看護の5分野6名により、それぞれの分野の視点から予防について研修を行いました。

参加者の79%は6年目以上の経験豊富な看護師であり、地域の看護職の皆様の学習意欲が高いことが伺えました。また100%の方が業務に活用できる学びがあったとしています。さらに82%の方より次回も参加したいというご意見をいただく事ができました。

私たち認定看護師は、現在院内で10分野11名が活動 しています。認定看護師の役割は「実践」「教育」「相談」





であり、患者さんやご家族はもちろん医療者や地域も含めた皆様に対して、幅広い活動を行っています。

この研修も地域の看護師さんのお役に立ちたい、そして地域全体の看護の向上を一緒に目指していく事を目的に今回で3回目を迎えました。研修会は私たちにとっても今後の活力となる貴重な機会であり、今後も継続していく予定です。

興味のある看護職の皆様のご参加、認定看護師一同心よりお待ちしています。

手術看護認定看護師 尾方 陽子

「はたちの献血」キャンペーン

「はたちの献血」キャンペーンは、毎年1月1日~2月28日までの2ヵ月にわたり全国で展開されています。(主催:厚生労働省・都道府県・日本赤十字社)

このキャンペーンは、献血者が減少しがちな冬期に安全な輸血用血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人を迎える「はたち」の若者を中心に広く献血に関する理解と協力を呼びかけるものです。

当院でも日々多くの患者さんが輸血を必要としています。病気や薬の影響などで十分に血液をつくれなくなった人や、事故や手術などで大量出血した人に輸血が必要です。輸血せずに放置しておくと、息切れや動悸、めまいなどが起こったり、出血が止まらなかったりして重症になると死に至ることもあります。

輸血の前には、医療スタッフが患者さんに、輸血の必 要性や有効性など分かりやすく説明し、輸血を受ける同 意を患者さんから得ます。その後、患者さんの血液型検査・ 不規則抗体検査や輸血する製剤との適合性を確かめる交 差適合試験を行っています。輸血用製剤は日本赤十字社 が献血時の問診、献血された血液の感染症検査などを行 い、安全な輸血用血液製剤の製造・供給に努めています。 しかし、病原体がごく微量であるため検査で検出できな いなどの理由により、輸血によって病原体が感染するリ スクがゼロではありません。

そのため、輸血して3ヵ月後に輸血された患者さんの 輸血後感染症検査を実施し、輸血により感染症になって いないかを検査しています。

病院にも不定期ですが、献血車が来院しています。 どうぞご協力の程宜しくお願いします。

臨床検査部 臨床検査技師 徳永 さやか

医療安全研修会

厚生労働省では、平成13年から「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動(PSA)」と命名し、総合的な医療安全対策を強力に推進しています。その取り組みの一環として、11月25日(いい医療に向かってGO)を含む1週間を「医療安全推進週間」と定め、医療関係者の意識向上や、国民の理解を深めていただくための様々な事業を実施されています。

当院においても 11 月に医療安全研修会を実施しました。 今回の研修は、普段私たちが行っているコミュニケー ションでの医療安全の研修で、とある救急外来を再現した ビデオを視聴し、その中で円滑なコミュニケーションの 難しさや大切さを改めて痛感しました。医療現場では多 忙であり、患者さんの容態が急変するなど臨機応変に対 応することが求められます。そして、医師への指示を仰 ぐ事も増えるため、経験不足・知識不足を補う上でも知 らないことは知らないとはっきり言うことや、多忙な時 こそしっかりと指示内容を聞くことの大切さも感じまし た。また、自分の伝えたい事を相手にわかりやすくかつ、 簡潔に伝える事の重要さもこの研修で学ぶことが出来ま した。より良く円滑にコミュニケーションを図る為には どうすればいいかを日々考えながら業務にあたりたいと 思います。

6 階病棟 看護師 田山あかり

派遣型ワークステーションを設置しました

当院救急センターは、救急救命士再教育病院実習を受け入れています。今回、二次救急施設では県下初となる派遣型ワークステーションを設置し、研修医の同乗実習を兼ねた試みに挑戦しました。

具体的には、救急救命士再教育病院実習3日間(24時間)のうち、1日(8時間)は救急車(救急隊員3名)を当院に常駐し、実習を行い、出動時には2年目研修医が同乗し出動、現場活動を行いました。

実習7日間中出動回数は9件でした。出動時以外は、救 急隊毎に立案した計画を基にシュミュレーション訓練等を 行いました。

派遣型ワークステーションを設置し、救命士の「教育」の拠点を病院に置くことで病院実習を行いながら、出動時には研修医から活動内容の指導や助言を受けることが可能となりました。また、研修医が現場活動を体験できたことで両組織間の相互理解につながりました。

今後、よりよい形で継続していけるように検討・改善し、 病院前救護の質向上に貢献したいと考えます。

救命救急センター 看護師 坂本 恵子

実習風景(出動要請)



2016年 院内がん登録集計結果

当院は、がん診療連携拠点病院(以下拠点病院)の役割の1つでもある院内がん登録を実施しています。院内がん登録とは当該施設で診断・治療を受けられた全ての患者さんのがんについての情報を登録する仕組みで、登録された情報は毎年、国立がん研究センターへ提出しています。このように各拠点病院から集められた情報から、がん診療の現状を把握し、がん医療の質の向上、がん対策の企画立案、がん患者及びその家族等への医療機関情報の提供などに役立てられています。また、当院でも自院のがん診療の把握のために同様に集計を行っています。今回は今年8月に提出した2016年症例の集計結果をご報告します。

登録数は登録を開始した 2007 年より増加傾向にありますが、2016 年は 729 件で前年と比較するとやや減少しています。部位別では多い順に大腸、胃、肺、乳房、子宮頚部/前立腺(同件数)で多少の増減はありますが件数は前年と比較して大きな変化はみられませんでした。年代別では 80 代の登録数が最も多く、また 70 歳以上の割合が 56%と全体の半数以上であり、地域の高齢化が影響しているためと考えられます。がんの発見経緯では「自

覚症状の出現」が48%、「他疾患治療中に発見」が23%、「健(検)診・人間ドック」が19%でした。「健(検)診・人間ドック」での発見割合が多かった部位は、甲状腺(50%)と乳房(37.7%)でした。また来院経路では、かかりつけの医療機関等からの紹介で来院された割合が全体の73%となっています。

拠点病院には5大がん(胃・大腸・肝・乳房・肺)の 手術・薬物療法・放射線治療等の集学的治療が求められ ています。当院での初発症例に対する初回治療の実施割 合(他施設から継続して当院で実施したものを含む)は、 大腸92%、乳房86%、胃79%、肺66%、肝臓57%でした。 肺、肝臓において実施率が昨年より低下していましたが、 これは診断された時点での病期(Stage)の進行や、高齢 等で積極的な治療を行わないなどの理由が関係している と思われます。5大がん以外では子宮頚部・体部・卵巣 の婦人科系がんが、いずれも98%以上となっています。

その他の集計結果については、病院ホームページに掲載していますので、そちらもご覧下さい。

院内がん登録実務中級者 医事課 川内 広美







感染対策 院外研修会

私は感染管理認定看護師として活動をはじめ、8年目となります。

2年くらい前から地域の高齢者介護施設や保育園など から感染対策研修の依頼をいただくようになり、講義や 演習を行っています。

地域包括ケアシステムの整備が進められる中、病院で働く認定看護師として「地域に貢献できることがないか?」と考えていたこともあり、院外研修を通し「実践できる感染対策」の提案に取り組んでいます。

今回は、特別養護老人ホーム千寿園様より講演の依頼 を頂き、「感染症のリスクマネジメント」をテーマに講義 と「吐物の処理」の演習を行いました。

講義では、感染症予防の原則や感染性胃腸炎を中心に 感染症の特徴をお話しました。

続いての吐物処理の演習では、3 グループに分かれ、 おかゆを吐物にみたて患者役の職員の方が嘔吐をすると





研修会風暑

いう設定で、患者役の方の名演技で見事に飛び散った吐物を汚染拡大に注意しながら処理しました。床が汚れないようにブルーシートを張ったり、準備から職員の方にはご協力いただきありがとうございました。

私は病院での勤務経験しかなく、施設での感染対策の イメージがつき難いところもありますが、研修を少しで も役に立てていただけると幸いです。

感染管理認定看護師 別府 るみ

乳がんで お困りの際は ご相談下さい

12 月より乳がん看護認定看護師として、人吉医療センターに勤務させて頂くこととなりました。乳がん認定看護師の役割は、乳がん患者が安心して治療ができ、普段通りに生活ができるよう支援を行うことです。病気への不安な気持ちを聴くことや、治療による身体的負担を軽減できるようケアを行います。「病気や生活の困った!」を気軽に相談でき、頼れる存在として活動してまいります。



乳がん看護認定看護師 地下 奈緒

屋內消火拴操法指導会参加

11月10日 人吉市下球磨消防署で開催された屋内消火栓操法指導会に参加しました。この大会は、屋内消火栓の操作方法や放水による玉を落とすタイムを競う大会です。私たちは女子チームとして参加し、日頃体験することのできない消火技術や火災時のスタッフの対応を学ぶことができました。万が一、院内および院外で火災が発生した際は、今回の経験を生かして迅速かつ適切な対応を行いたいと思います。

画像診断センター 尾方 智子



地域緩和ケア研修会 開催

11月21日、「緩和ケアへの心理的支援」をテーマに、 地域緩和ケア研修会を開催しました。医療機関や福祉施 設の看護師、社会福祉士など、様々な職種の方にご参加 いただきました。

緩和ケア病棟は、からだの苦痛や不安などを和らげ、 患者さんがご家族とともに、その人らしい人生を送って いただけるようにお手伝いするところです。また、つら い症状をとり、退院へのお手伝いをするところでもあり ます。

緩和ケア病棟での関わりとして、患者さんのつらさや 苦しみと共に向き合っていくことの下支えを目指し、話 をお聴かせいただきます。しかし、実際に体験・経験し 語られるつらさや苦しみは様々なものがあります。"自分 らしい人生を送りたい"と願ってはいるものの、自身のつらさや苦しみと向き合い、付き合っていく事はそう簡単ではありません。「つらい」と言葉での表現は同じであっても、痛みやだるさなどの身体症状を伴う場合、家族関係が背景に影響している場合、時には自ら最期を意識し選択せざるを得ないほどの苦しみが生じている場合など、痛切な語りを受け目頭や胸を熱くさせることもあります。また、患者さんご本人だけでなく、ご家族も同様につらいおもいを持ちながら過ごされている場合もあり、傍で静かに寄り添うだけのこともあります。しかし、患者さんの訴えの背景におもいを廻らせると共に、人間性や人生観など、学ばせていただくこともたくさんあります。

声にならないおもいにも耳を傾け、患者さんのこころ に寄り添っていけるよう、今後も努力して参ります。

臨床心理士 鶴田 真奈美



当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域 包括ケアを推進していきたいと考えています。

そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介いたします。今回は「特別養護 老人ホーム 聖心ホーム」さんです。

特別養護老人ホーム 聖心ホーム Vol.15

【施設の特色】

ご家族と連携をとりながら、自立へ向けた介護計画 (ケアプラン) を作成し心をこめて介護させていただきます。

基本的生活(食事、入浴、排泄、清容)を大切にし、個人のニーズに合ったリハビリやレクリエーション等多くのふれあいをもって、和やかな雰囲気の中で安心して生活をしていただくよう努めています。

【対象者】

要介護3以上の認定を受けられた方

【サービス内容】

- ・特別養護老人ホーム 定員 40名(多床室30名、ユニット型個室10名)
- ·短期入所生活介護事業(定員 7名)

【その他の事業】

- ·通所介護事業所(1日定員 30名) ·居宅介護支援事業所
- ・養護老人ホーム
- · 訪問介護事業所

【地域の皆様に一言】

お一人お一人が、かけがえのない存在であることをわきまえ敬愛に 満ちた明るい雰囲気の中で、生活の支援をおこないます。

【お問い合わせ先】

TEL: (0966) 23-3320 FAX: (0966) 23-3853 主任生活相談員 前田文子





正面玄関

居室

【訪問スタッフからのコメント】

聖心園の歴史は古く開設から100年以上たっており、当初、隣接する修道院が身寄りのないお年寄りを保護し生活をしてもらう「みこころ養老院」を開設したことが始まりで、昭和60年・社会福祉法人仁和会が引き継がれ現在の聖心ホームとなったそうです。朝礼では、賛美歌を歌ってお祈りをされており、開設当初の雰囲気を引き継がれ歴史を感じます。人吉一中、人吉幼稚園の運動場に囲まれた立地で、子ども達の声が聞こえ、元気を分けてもらえそうな感じがしました。

【アロマでゆったり~ひまわり会開催】

当院看護師の川口ゆきさんを講師に迎え、10月27日に開催したひまわり会でアロママッサージオイルを作りました。 エッセンシャルオイル (精油) を使用したマッサージオイルでのハンドマッサージは、心と体のリラックスやリフレッシュにはもちろん、冬に向かって乾燥しがちなお肌の保湿にも効果が期待できます。

女性は仕事や家事で酷使し、冬場は酷い手荒れに悩まされている方も多いと思いますが、皆さん作成したアロマオイルで手をマッサージし、しばし優雅な一時を過ごして頂きました。

直接乳がんに関わるテーマではありませんが、リラックスして自分を労る時間を作って頂く事も乳がんと共存しながら生活するうえで大切なことです。

がんは仕事をしながら治療をする時代となり、ひまわり会に参加いただいた方々も治療をしながら、仕事や家事、 育児を頑張っておられますが、時々息抜きをしていただけたらと思います。

医療福祉連携室 岡本 理恵

【マッサージオイルの作り方】-

進備するもの

15ml のマッサージオイルをつくる場合

- ・キャリアオイル(ホホバオイル) 15ml
- ・エッセンシャルオイル (精油) 3滴
- · 容器
- ※上記の量で精油の濃度が1%のマッサージオイルを つくることができます。

(安全なマッサージを行う上では、精油の濃度は1% 程度が適当です)

ハンドオイルに使用する精油:

- ・ラベンダーで殺菌作用の効果を期待し、快眠を誘う
- オレンジスートで気分を前向きに
- ・ローズウッドで保湿効果と疲れた神経を穏やかに

キャリアオイルの量	10ml	15ml	20ml	30ml
必要な精油の量	2滴	3滴	4滴	6滴

(※希釈濃度 1%の場合) 精油 1 滴は 0.05ml です

【マッサージの方法】-

- ①マッサージオイルを手に取り、両手で温めます。
 - 温めたオイルを両手に広げます。

(手が乾燥していたら、追加してオイルを手に取ります)

- ②手の甲をゆっくりなでます。
- ③手首のくるぶしの、親指を使って円を描くように優しくマッサージします。
- ④指先側から手の甲の骨と骨の間を、親指と人差し指を使って滑らせます
- ⑤小指から順番に、手の甲から指先に向かって1本づつマッサージします。 くるくると円を描くように、最後に爪の付け根をそっと押します。
- ⑥手のひらの親指の下、小指の下をほぐします。
 - 反対側の親指を使って、気持ち良い程度に圧をかけます。
- ⑦手で水をすくうときに、一番くぼむところを親指で、グーッと押さえて終わります

【ツボの話】





「労宮」の名前の由来は諸説ありますが、一説によると心苦労の集まる中心という意味と言われており、心労が重なると、このツボに症状があらわれると言われています。 例えば、ストレス過剰の時は、「労宮」を押すと痛く感じます。 手の中心部に位置する「労宮」を押すことにより、血行が良くなりカラダの緊張を緩和させたり、気持ちを落ち着かせることができます。



第20回 ビーチボールバレー大会に参加して

今年で20回目を迎える総親会主催ビーチボールバレー大会に、参加させて頂きました。今年は去年の予選敗退の雪辱を果たすべく作戦を練って準備したおかげでみごと優勝を飾ることができました。

内視鏡・検診内視鏡においても、日頃の運動不足の解消ができフットワークもさらに磨かれることでしょう。毎年大会を運営される皆様、本当にありがとうございました。

内視鏡センター 看護師 岩崎亮介



総親会忘年会



づいた気がします。内容としては今年話題のサンシャイン池 崎を題材とし、サンシャイン野村として同じ病棟の同期とと もにネタを考え発表しました。普段、出したことのない大き さの声を大勢の前で出すことはものすごく緊張して恥ずかし かったですが本番は自分の殻を破りはじけることができたか なと思います。

また、先生方参加のハピネスではバックダンサーとして参加しました。衣装もそろえ本格的なうちわや動画などが準備され、こんなに本格的なんだと驚きました。たくさんの練習を積み重ね、楽しく発表を終えることができて良かったです。

5 階病棟看護師 野村 茜

おしらせ

平成30年1月16日 (火)18時~ 当院で18歳 未満の患者さん(児童)からの臓器提供について講演が行 われます。医療関係者の皆様の多数ご参加をお待ちします。

日時: 平成30年1月16日(火) 18時~

場所:人吉医療センター 3階 講堂

「18 歳未満の患者さん(児童)からの臓器提供について」 〜心配りのポイントと注意点(虐待の有無等)〜 富山県臓器移植コーディネーター 高橋 絹代 先生

この会は、日本臓器移植ネットワーク都道府県支援事業の一環として行われます。

共催:人吉医療センター、熊本県臓器移植院内コーディ ネーター養成事業

(問い合わせは下記まで)

熊本県臓器移植コーディネーター 西村真理子 熊本赤十字病院 社会課 096-384-2198(ダイヤルイン) shakai@kumamoto-med.jrc.or.jp

地下 奈緒(外科外来・看護師)

最終卒業校:出水中央高等学校 趣味:ライブ・フェスに行く事

生活信条:優劣の判断をしない

最終卒業校:球磨商業高等学校

自分のコマーシャル: 顔も体型も渡辺直美にそっくりです。

自分の性格:かなりのんびりしてます

長所:相手の立場に立って接すること

趣味:書道

短所:おっとりしすぎる

好きな言葉:忍耐

よろしくお願いします。

日隠 智子 (療養介助員)

11月の勉強会報告

12月8日(金)大腸癌Expert Meeting in 人吉

「当科における腹腔鏡下大腸手術の取り組み」 熊本総合病院 外科 医長 森田 圭介先生 「大腸がんに対する温熱療法(XELOX療法との併用)」 群馬大学 未来先端研究機構 ビッグデータ統合解析センター 教授 浅尾 高行先生

12月11日(月) 第63回人吉·球磨最新医療研究会

「頭頸部癌治療戦略:手術治療〜免疫療法」 熊本大学大学院生命科学研究部 耳鼻咽喉科:頭頸部外科 学分野 教授 折田 頼尚先生

12月14日(木) 第90回乳腺カンファレンス

「ハイパーサーミアの概要と治療効果」

当院中西節臨床放射線技師

「遺伝性乳がんについて」

当院 臨床研修医 白川 真実先生

西 亜由美(療養介助員)

最終卒業校:熊本県立多良木高校

趣味:ドラマ鑑賞 自分の性格:マイペース

自分のコマーシャル:一生懸命頑張りたいと思います。

よろしくお願いします。

面会制限のお願い

インフルエンザ流行期間中の面会はお控え頂い ております。

感染防止対策へのご協力をお願い致します。

